

令和 7(2025)年 4 月 14 日～

栃 木 県 立 文 書 館

常 設 展 の 御 案 内

2024.6 ~ 2025.6

文書館常設展では 2 つのコーナーを設け、それぞれのテーマに関する史料を紹介しております。

限られた点数ではありますが、多様な史料の語りかける世界をどうぞお楽しみください。



○ もんじょ君

テーマ1 史料レスキューで甦った文書 —磯田守氏戦争関係史料コレクション—

主な展示史料

征露従軍日記

発火演習記念絵葉書

戦地からの軍事郵便

生菓子購入券、衣料切符

戦時下の双六

ほか

明治期以降の対外戦争に関わる史料を中心とした磯田氏のコレクションは、令和元年(2019)東日本台風(台風第 19 号)により被災しましたが、史料レスキューによって甦りました。これらの史料のうち、日清戦争・日露戦争、戦時下の教育、戦時下の国民生活の 3 つに焦点をあて、展示します。

テーマ2 江戸時代 —文書の時代へ—

主な展示史料

佐々宗淳書状

諸会席控帳

(期間限定展示)

徳川家康朱印状

ほか

江戸時代には、さまざまな記録を残す必要があったため、文書作成量が飛躍的に増加しました。現在、古文書として私たちが多くの文書を目にすることができるのは、これらが大切に保管されてきたからです。本コーナーでは、武士・百姓・町人がそれぞれ作成した文書を紹介します。

○ 展示期間 令和 6 (2024) 年 6 月 17 日 (月) から約 1 年間

※土、日、祝日、年末年始休館日を除く

※ただし、令和 7 (2025) 年 4 月 27 日、5 月 25 日は 10 時から開館します。

○ 開館時間 午前 9 時から午後 5 時まで

○ 会 場 県庁南館 2 階 栃木県立文書館展示室 (宇都宮市塙田 1-1-20)

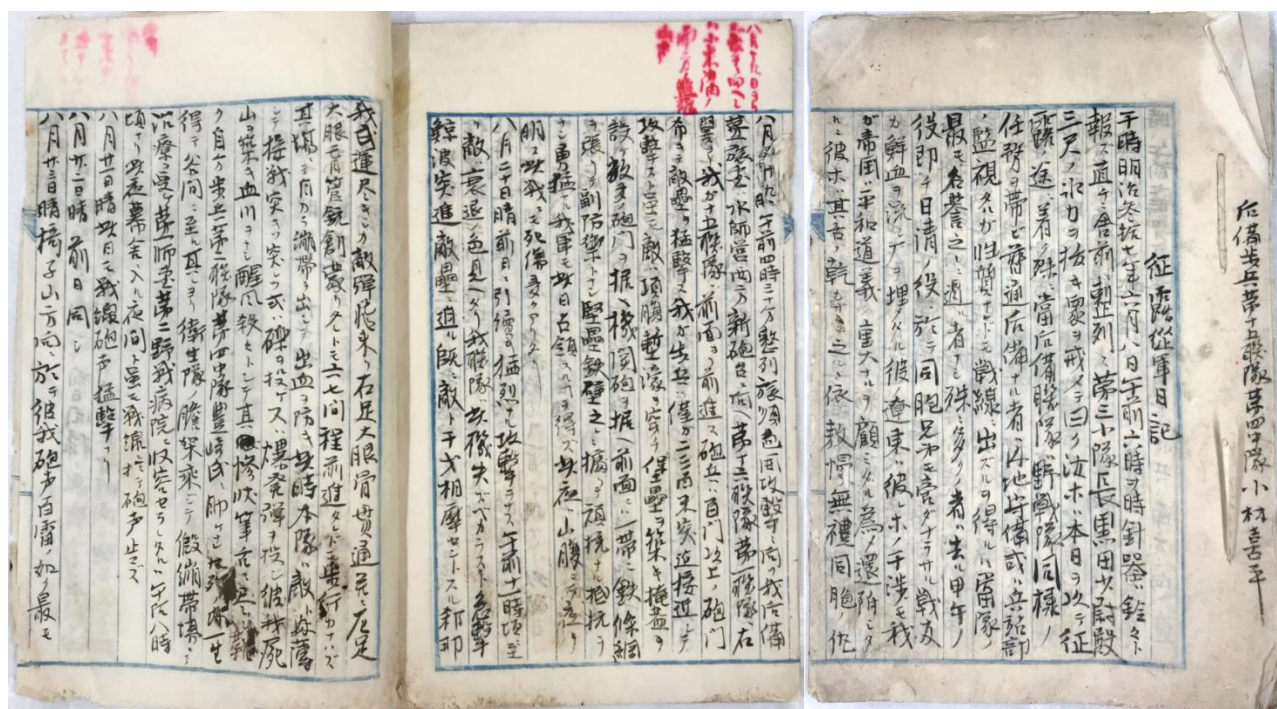
○ そ の 他 入館料無料

史料保存のため、一部展示替えをする場合があります。

各テーマの代表的な展示史料

常設展示のテーマごとに、代表的な展示史料を紹介します。

Ⅰ 史料レスキューで甦った文書 ―磯田守氏戦争史料コレクション―

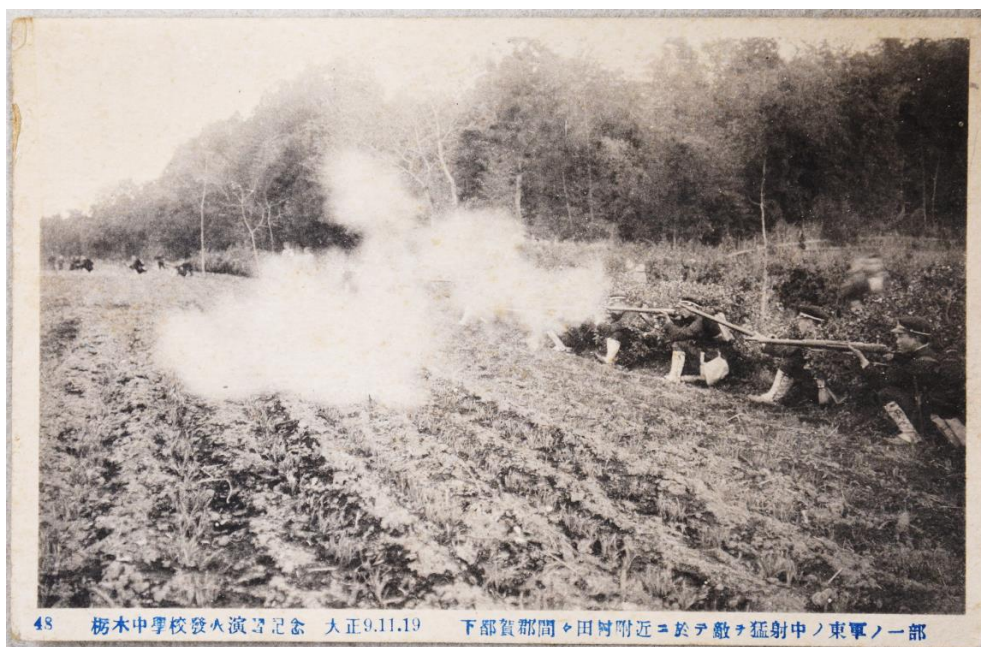


征露従軍日記

明治 37 年 (1904)

磯田守氏戦争関係史料コレクション No.340

この従軍日記には、明治 37 年 6 月から 9 月までの様子が記されています。この日記を書いた小林喜平は、下都賀郡水代村(現栃木市)出身で、後備歩兵として日露戦争に従軍しました。



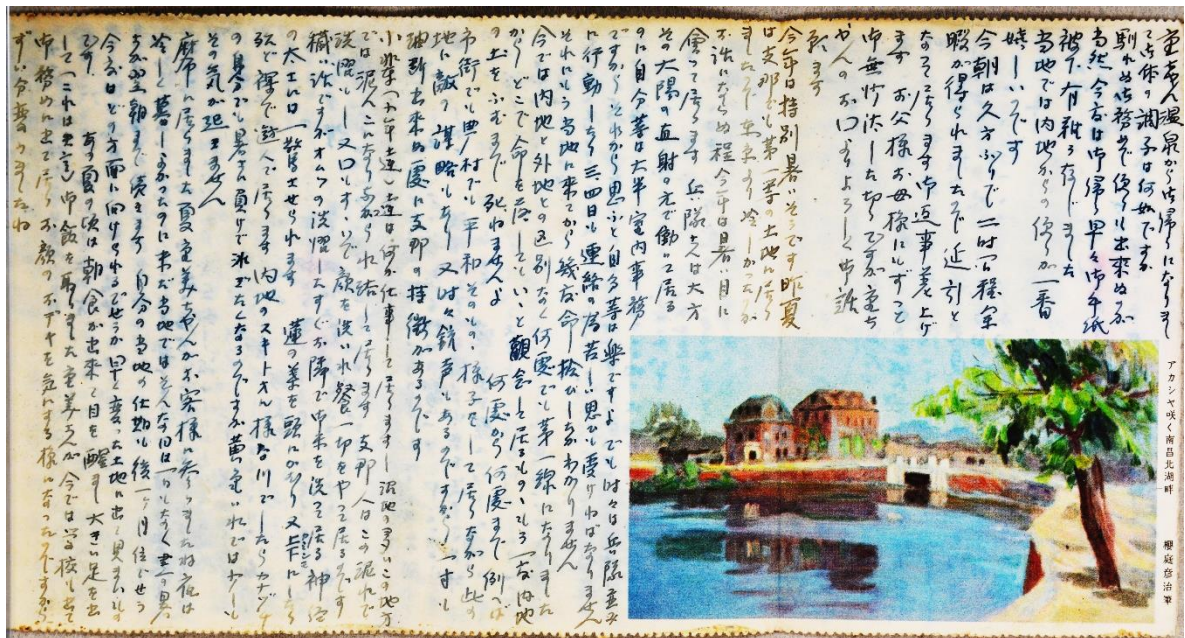
発火演習記念絵葉書

大正 9 年 (1920) 11 月 19 日

磯田守氏戦争関係史料

コレクション No. 7

栃木中学校(現県立栃木高等学校)の学校行事の一つとして行われた、模擬戦闘演習の場面を伝えるものです。こうした軍事的行事は、日頃の訓練の成果を公表する場や戦意高揚の手段として実施されました。



軍事郵便

年月日未詳

磯田守氏戦争関係史料コレクションNo.54

中国に派遣された野戦郵便局員の男性が、両親に宛てた書簡です。



ヨイコドモグウンバレ双六

昭和 16 年(1941)1 月

磯田守氏戦争関係史料コレクションNo.イ 58

当時の社会情勢や流行が取り入れられた双六は、明治・大正時代から雑誌の正月号付録の定番でした。忍耐を美德とするマスが多くみられ、戦時下の子どもたちに対する教育が反映されています。

2 江戸時代—文書の時代へ—

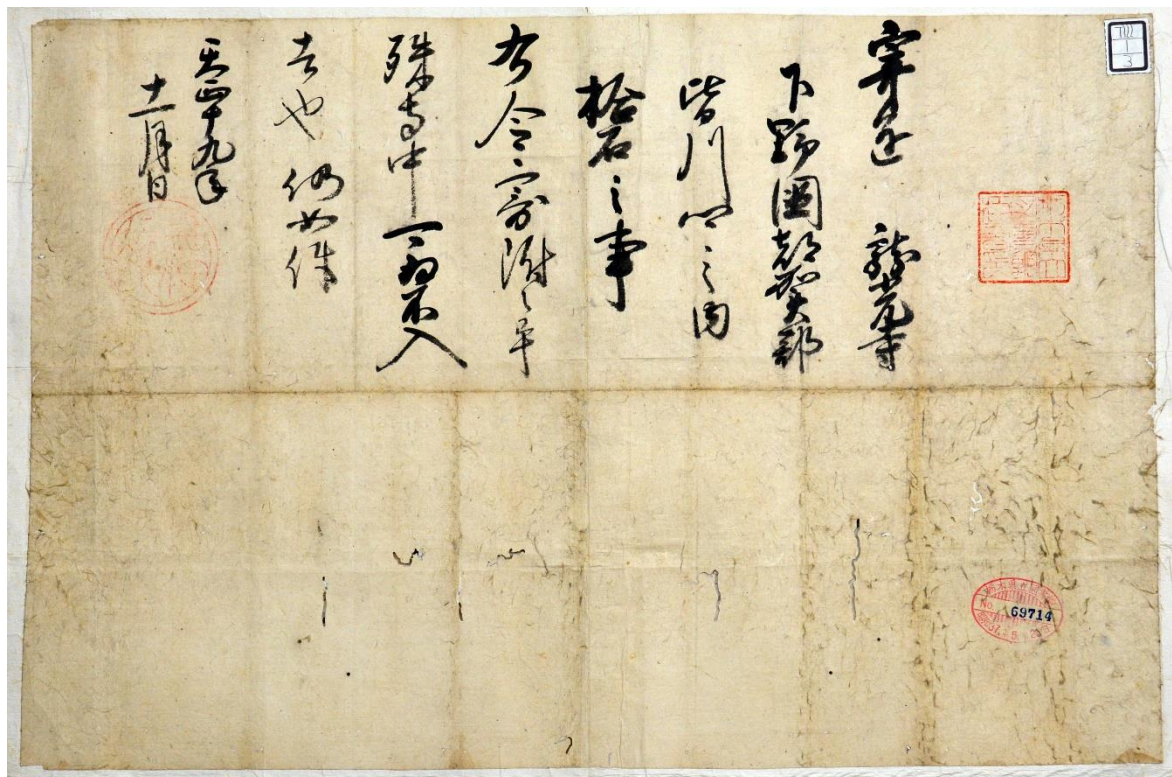


諸会席控帳

天保4年(1833)正月15日

当館寄託 かな半旅館(志鳥正樹家)文書No.807

古着屋商人たちの会合時における会席料理のメニューが記された横帳です。「平めさしみ」「しら魚」なども食されていたことがわかり、栃木町が巴波川^{うすま}の舟運を通じて、江戸・銚子方面から物資を輸送していたことがうかがえます。



徳川家康朱印状

天正19年(1581)11月

当館所蔵 徳川将軍家朱印状No.82

竜光(興)寺(栃木市都賀町大柿)に対して、皆川郷(栃木市の一部)の内10石を寄進(寄附)したものです。縦紙(一紙)に記され、紙質は当時最高級の和紙である大高檀紙^{おおたかたんし}が使用されています。